

平成20年度病害虫発生予察特殊報第4号

平成21年3月11日
千葉県農林総合研究センター長

ブルーベリー赤色輪点病（仮称）の発生について

1 病 害 名：ブルーベリー赤色輪点病（仮称）

2 病原ウイルス：*Blueberry red ringspot virus* (BRRV)

3 作 物 名：ブルーベリー

4 発 生 経 過

2007年11月、千葉県木更津市のハイブッシュブルーベリー樹において、果実に赤色のリング状および斑入り症状、茎および葉では赤色のリング状症状の発生が認められた。

これらの症状から、日本未報告のレッドリングスポットウイルス(BRRV)によるブルーベリーのウイルス病であると疑われたため、岩手大学農学部 磯貝准教授が、PCR法による遺伝子診断および塩基配列解析を行った。

その結果、上記の症状を呈したブルーベリー樹から特異的に BRRV が検出された。このことから、日本で初めて BRRV によるブルーベリー赤色輪点病（仮称）の発生が確認された。

5 病 徴 等

(1) 本病は葉、茎、果実に病徴を示すが、それぞれ病徴が表れる時期が異なっており、葉は秋、茎は春から初夏、果実は果実成熟期に顕著な病徴を示す。病徴が表れている葉の裏面はきれいな状態で、かび等の発生は認められない。

具体的な病徴は、果実には斑入り(写真1, 3)または赤色のリング状斑点(写真2)を示す。葉には赤色輪点(写真7)または赤色斑点(写真4)を示す。茎には赤色輪点(写真5)または不定形の赤色の染み(写真6)を示す。

(2) 発生が確認されている品種は、ウェイマウス、ブルーレイ、シエラ及びデュークである。

(3) 発病すると商品性は著しく低下する。アメリカでは果実収量が25%減少するとの報告がある。

(4) 伝染方法については、未解明である。

6 当面の防除対策

ウイルス病であるために、現在は治療法がない。発病樹は抜き取り、適切に処分する。

7 参考文献

2008 年日本植物病理学会東北支部会・講演要旨

2009 年日本植物病理学会大会・講演要旨

Isogai M, Ishii A, Umemoto S, Watanabe M, Yoshikawa N (2009). J Gen Plant Pathol., In Press.



写真 1 ~ 3 は果実の症状，写真 4 は葉の初期症状，写真 5 ~ 6 は新梢の症状，
写真 7 は古くなった葉の症状

(原図：岩手大学農学部 磯貝准教授)